

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	第1回 河内長野市観光振興計画策定委員会
2 開催日時	平成29年6月27日(火) 午前10時から
3 開催場所	市役所301会議室
4 会議の概要	(1) 河内長野市観光振興計画の策定方針について (2) 河内長野市観光振興計画策定スケジュールについて (3) 河内長野市観光振興計画の方向性について (4) 計画策定に係る各種調査について (5) その他
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	1名
7 問い合わせ先	(担当課名) 環境経済部 産業観光課 (内線 479)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

第1回河内長野市観光振興計画策定委員会（平成29年6月27日） 議事要旨

【出席委員】

尾久土委員長、清水副委員長、上野委員、徳永委員、阪口委員、竹之内委員、阪谷委員、中島委員、尾之上委員、高橋委員

【出席事務局メンバー】

（市）：太口環境経済部長、尾西産業観光課長、森田産業観光課参事

長野産業観光課課長補佐兼係長、畑中産業観光課係長、西本産業観光課副主査

（コンサル）：株式会社 都市設計総合研究所 田中所長

1 開会

2 委員の委嘱

太口環境経済部長より各委員へ辞令（委嘱状）を交付。

3 開会のあいさつ（太口環境経済部長）

4 委員の紹介

各委員より自己紹介。

5 委員長・副委員長互選

河内長野市観光振興計画策定委員会設置条例第5条第1項に基づき、委員の互選により委員長は尾久土委員、副委員長は清水委員と決定した。

6 委員会の公開

河内長野市附属機関等の設置、運営及び公開に関する指針に基づき、委員長から各委員に諮り、本委員会を公開することに決定。

（傍聴人1名入室）

7 議事

（1）河内長野市観光振興計画策定方針について

（2）河内長野市観光振興計画策定スケジュールについて

事務局（市）： 資料に基づいて説明。

委員長： 本計画の策定方針について、総合計画の下にあるというようなことと、産業振興ビジョンと関連があるという位置付けである。またスケジュールと併せてご意見・ご質問を。

副委員長： 6月～8月から各調査を行うということだが全てアンケート調査か。

事務局（市）： 基本はアンケート調査。観光統計調査は例年入込客調査を行っている。今年度は事業者や団体へのヒアリングも行いたいと考えており、併せて市関係課にも

ヒアリングしたい。

委員：今の時点では、平成13年3月策定の河内長野市観光産業振興計画があり、今回はその内容を見直すという認識で良いか。

事務局（市）：その通り。

委員：期間が平成37年度までの8年間という事になっているが、第5次総合計画に合わせるという事か。

事務局（市）：その通り。

委員：今回の計画は消費額等を増やすことが目的なのか、そうではなくて、魅力を創出することが目的なのか。

事務局（市）：目的についてはこの委員会にてご議論いただけたらと思っている。本委員会の議論を踏まえてどこに重点を置くかを議論出来たらと思う。

委員長：それではこのスケジュール案、策定方針で進めさせていただくがよいか。

～一同了承～

（3）河内長野市観光振興計画の方向性について

事務局（市）：資料に基づいて説明。

委員長：本日の委員会の中で、多く意見をいただきたいと思っている。いろんな分野から出席いただいているので、それぞれの違った角度で河内長野市の現状や課題、強み・弱みをお考えだと思う。遠慮なく、たくさん意見を出して頂いて、それをまとめていくことにしたい。

委員：河内長野には新日本百名山の一つである岩湧山がある。岩湧山へは河内長野駅から行くルートがメインとなるが、河内長野はバスの発着点だけになっている。もう少し、登山客が河内長野駅周辺で時間を過ごすという事になってほしい。

委員：観光ボランティアは観光客からガイドの申し込みに対応してご案内している。また河内長野駅前の観光案内所での観光案内も行っている。現在では主に5つのガイド場所を持っていて、観心寺、延命寺、金剛寺というお寺を拠点とした定点ガイドや、高野街道のガイドで、ウォーキングをしながらというものもある。また滝畑では、滝畑ダム近辺の奥河内の自然をご案内している。変わったガイドとしては、滝畑ダムの堰堤にある監査路の案内といったものもある。また、旅行会社や市内の宿泊施設と連携した観光ガイドも行っている。私たちがお相手している観光客は必ずしも一律ではなく、どんなことを希望しているか良く聞くことがポイントと思う。たとえば金剛山から帰ってくる方はお風呂へ行きたいという声を多く聞く。河内長野駅に近い河内長野荘へご案内しているが、風呂だけの提供をされておらず、食事とセットという形しかないので、あきらめる方も結構多い。山登りした後なので一風呂浴びたいというニーズは多いので、なんとか工夫が必要だと思う。資料の中に観光ボランティアの在り方を検討することが必要という言葉が出ている。これはどういう風な対応をしたらいいか、この議論の結果を踏まえて、我々も在り方を考えたいと思う。

委員：知らない方にとって河内長野は遠い場所というイメージの方も多。大阪観光

局でも大阪市内の最高級クラスのホテルのコンシェルジュの方に、奥河内の日本酒や自然を知って頂こうとモニターツアーを開催し、参加者に「意外に近いね」という声をたくさんいただいた。時間が掛かるというイメージを払しょくするという事が必要。加えていかにうまく情報を発信していくかがポイントになる。観光協会はフェイスブックに高頻度で情報更新しており良いと思うが、そこにもう少し、アクセスなど来たいと思っていただけるような情報を加えるとより良いと思う。また外国人観光客が散策しながら近くの観光スポットを巡ったり、美味しいものを食べてもらえるようにいろんなコースを提示できたらいいのではないかと。観光客のニーズに応じたものが出来たらと思う。

委員：まず、とにかく観光客に来てもらうことが大切。来てもらうにはどうしたらよいか。団体に来てもらいたいというのが一番。団体に呼ぶにしても、駐車場などの問題もある。資料に旅行会社との連携とあるが、今までどういう形で連携してきたのか。

事務局（市）：数年前に大手の旅行会社と連携して市内各地を回るツアーを企画した。実際は最少催行人数に達しないケースも多かった。また地方創生交付金事業の取り組みで代金の半額補助の旅行商品を企画したが、そのときはお得感があって、すぐ予約が埋まり成功をおさめたと認識している。大型観光バスが入れないという問題等をクリアして、団体に来てもらうような方策を考えていきたいと思う。

委員：わかりました。まずは駐車場の確保をどうするかがポイントになってくると思う。もう一つは、少しでも長く滞在させるにはどうしたらよいかを考えると昼食を取れる場所が必要となる。これらの課題を考えたとき、市内の施設で一番考えられるのは駐車場や収容キャパシティの観点で河内長野荘ではないか。あとは考えられるとすれば、ワールド牧場というような大きな土地のあるところで、食事も出来て果樹園もあって、温泉も宿泊施設などいろんな施設を入れて、体験もできるという大きな施設を作ればという想いもある。それはすぐに出来ないと思うが、そんな考えもある。

委員：私は個人的に山登りが好きで、世界中の山を登ってきた。現地の人とする会話はどこも人口が減っている、滅びないようにはどうしたらいいかという話ばかりしている。それに比べて本市の強みはたくさんある。何でもあるというのが逆に弱点といえるほど。日本というのは、中身より印象で観光客を呼ぶことに成功していることが多い。その印象をどう作るかという視点で考えると素材はたくさんある。そこで、市民が何か観光に関してアイデアがあれば、出来るかどうかわからないが、市役所で検討するという事が出来たらいいと思う。本市の資源の中でも烏帽子形城跡は大阪府で中世を代表する城郭。ただ近隣の施設との道路のつながりなどアクセスには課題がある。あと、くろまろの郷。玄理（くろまろ）のことを知っている人がほとんどいない。7世紀に小野妹子が遣隋使として、朝鮮半島で一流の外交官として活動した誇るべき人で彼が創った町もあった。これらをうまく活かさないといけない。情報発信では、ホームページの外国語対応していない宿泊施設は、生き残れないというのが世界の通性。

外国語で予約できるように出来たら、良いのではないかと。できるだけお金をかけずに知恵を絞ることが大切だと思う。

委員： 年間の観光入込客数の推移などを見ると、河内長野は観光客の方が結構来られているなどという印象。インターネットを活用した情報発信の部分ではサイトの閲覧数などをひとつの数値目標とすればよいのではないかと思う。PRの仕方という観点では、いかに上手にマスコミに取り上げてもらうかが大事と思う。例えば、今年は歴史、次の年は果物という風に、その年ごとにテーマを決めて、重点的に情報発信をするというのも方法ではないか。また最近外国人の方は体験重視と承知しているが、食べるというのも体験と考えられる。黒門市場は最近、外国人観光客の方が溢れ返っている。良く言われることだが、果物を作っている場に来ていただき、その場で食べてもらう。その場を発信すると、河内長野でこんなもの食べられるというようなことが発信できて認知度が高まると考える。そういう意味では資料にある「ターゲットに向けた情報発信」というところが非常に重要と考えている。

委員： 河内長野市商店連合会としては、市内事業者のキーマン的存在の方々に加わってもらって活動している。今では市内の飲食店との協力でフルーツラリーなどのイベントを実施したり、約30年ぶりに若手農家で結成した団体と地元商店を繋げたりしている。観光と商業とを結ぶと考えたとき、例えば電車で河内長野駅に降りてから住宅に点在するお店に行くとする、タクシーに乗って行かざるを得ない。電車・タクシー事業者など連携するようなことが出来たらと思っている。またホームページやFacebookなどを活用した情報発信に取り組んでいるところだが、市内の老舗写真館の方が趣味で、市内の寺院・神社・行事などを360度パノラマで写真撮影して公開している。提案として地元の人しか知らないディープなことを情報発信されているので、外国語対応などもできれば市外へのPRにつながるのではないかと思う。

委員： 商工会としての立場から考えると観光と産業の融合として、古い事業所もあるので、企業見学という事も出来ると思う。日帰りのツアー、宿泊のツアーそれぞれいろんなパターンを企画できたらと思っている。加えて、駅前の空き店舗がかなり響いていると感じている。過去にも、市と一緒にチャレンジショップなど取り組んでいるが、なかなか思うようにいかない。どこの市町村も同じだが、商工業者数・事業所数自体が減っている。2年前から新規の創業者向けセミナーを実施しているので、そういった方々を空き店舗に誘致できる方向性が取れたらと思う。様々な専門家の皆さんのお話を聞きながら帰りたいと思う。

副委員長： 今、全体的に話を聞いていると大きく分けて2つの問題があげられる。一つは観光資源の問題。2つ目に情報発信・PRの問題。資源をつなぐという部分では月数回でもよいので定期観光バスを運行してはどうかと思う。東京では「はとバス」がまたクローズアップされてきている。バスでなくても大型タクシーでツアーを考えるという事も出来るのではないかと。昼食の問題は、天候に左右

されるが、例えば山の中で食べることも出来ると思う。仕出し屋さんもあると思うので、そこの商売に繋がるかもしれない。加えて、一般の家庭で料理を習いに行くという事が流行っている。市内には農家さんもおられるし、材料は揃っていると思う。ホスピタリティもあると思うし、農家の家を見に行けるといいうのも魅力で、団体であってもそれぞれ分かれて昼食を食べるといいうのも面白いと感じる。

考えていく問題の分け方として、宿泊、日帰りなのかで、商品の作り方・マーケティングの仕方・情報発信の方法が変わってくると思う。宿泊を伴う場合は、既存の施設のキャパシティを考えると難しいところもあるので民泊の手法もある。そういった新たな民間の力を利用する「シェアリングエコノミー」も動き出してきている。あとマーケティングの面だと思うが、河内長野といったらこれというものを、1・2つ出す必要があると思う。

整理すると1つ目は資源をどう観光化させるかという資源の問題。そこにはハード・環境の整備も入ってくると思う。2つ目は情報発信・PRを含めるマーケティングの問題。ターゲットをどうするのか、セグメンテーションをどうするのか。3つ目は日本が一番弱い、マネジメント。ホスピタリティの根幹である観光に携わる人材をどう確保し、どう教育していくのか。加えて資金源の確保と、どう組織運営していくのか。これらは「資源」を整理して、「マーケティング」を行って、「マネジメント」を考えるという流れが良いのでは。もう一つ、観光の分野は市民の方でも興味を持っている方もいると思う。公募でも声を掛けてでも良いが、民間の方と行政の方と産業の方と継続して話をしていくことが大切だと思う。情報交換の場でもあり、繋がる場になると思う。是非ワーキンググループのような形で継続して話をする場が必要だと思う。

委員長： みなさんありがとうございました。私のほうで事務局資料とは別に、観光客数をグラフにしてみた。入込客数は約100万人となっているが実態は少し違うのでは。寺ヶ池公園など市民が多いと思われるところもカウントされている。一方高野山は現在200万人の観光客が来ている。魅力を考えたときに高野山との関係性についてももう少し、頑張らないといけないと思う。また河内長野市内には空海由来の寺がある。高野街道、岩湧山の岩湧寺は吉野・大峰と繋がる役行者の有名なお寺であり、世界遺産とのつながりというものも持っている。来年春には天野山金剛寺に修復中の御本尊が新たに国宝に認定されて帰ってくる。それらのさまざまな歴史のつながりを活かすにはやはり2次交通の整備・DMOといった体制整備も重要と考えている。

最後にいろんな方がいろんな意見を出していただき、河内長野のいろんな情報が分かったかと思う。これら意見を事務局にてまとめてほしい。

(4) 計画策定に係る各種調査について

事務局（市）： 資料に基づいて説明。

委員長： 日程的にはWEBアンケートはこれから作成していく。アンケート案が出来次

第、委員に送っていただき、意見のある方は市役所へ連絡し、活かして頂くという事をお願いする。

～一同了承～

(5) その他

委員：資料はメールで送付頂いて、メールの無い方だけ郵送でいいのでは。

～一同了承～

事務局（市）：第1回の会議という事でみなさんに議論いただいた。冒頭に提示したスケジュールの流れで、今後アンケート調査等を実施しながら、素案を作成していく。9月の下旬をめどに第2回を開催したい。日程に関しては別途連絡させて頂く。また、アンケート調査の内容等に関してはメール等でお示ししたいので、宜しくお願いしたい。

～一同了承～

委員長：それでは、本日の案件は終了した。長時間の審議ありがとうございました。

8 閉会のあいさつ（太口環境経済部長）

～閉会～